

## 西田俊夫先生がこよなく愛した宝塚・虎・OR

石井 博昭

西田俊夫先生は今年度春の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。6月29日ホテルグランピア大阪でそのお祝の会を行いました。西田先生の永年にわたる教育・研究の成果が認められた結果とうれしく思いました。特にオペレーションズ・リサーチに関する多大なる貢献がこの中で大きなウエイトを占めているのは間違いありません。

西田俊夫先生は、昭和2年7月31日岡山県にお生まれになりました。昭和25年3月京都大学理学部数学科を卒業されると同時に同年4月神戸大学文理学部助手となり、昭和27年11月同文理学部講師に昇任、昭和29年4月同理学部講師に配置換になられました。昭和34年3月同辞職、同年4月甲南大学理学部助教授、昭和38年4月同大学教授に昇進なされました。昭和42年1月同退職され、同年2月大阪大学工学部教授に就任し、応用推計学講座を担当、平成2年3月31日付けをもって退官され、大阪大学から名誉教授の称号をうけられました。同年4月に大阪国際大学経営情報学部教授に就任し、平成5年同学部長、平成10年同大学学長に就任し、平成12年3月に退任されました。平成14年3月には大阪国際大学を退職し、大阪国際大学からも名誉教授の称号を得、現在はNPO関連の会社の会長をしておられます。甲南大学、大阪大学ではその当時は珍しかったオペレーションズの講座を作られました。まさに先見の明があったと思います。

西田先生のご研究は、オペレーションズ・リサーチ全般にわたりますが、特に確率過程の理論とその応用として、理論としては待ち行列や信頼性の研究での寄与、応用としては数理経済学の研究である。「待ち行列の理論と応用」(朝倉書店、1971)、「ゲームの理論」(日科技連出版社、1973)、「応用確率論」(培風館、1973)などは、この辺りの研究者が必ず勉強する書物であり、ORの研究の広がり、研究者のすそ野のひろがりに大いに寄与しています。関西は日本でのオペレーションズ・リサーチの発祥の地であります。西田俊

夫先生はその草分けとして活躍されました。昭和30年に大阪工業会にOR研究会と経営科学協会が設立されました。さらに昭和34年に関西OR協会が発足しております。そのときからその主力メンバーとして活躍されておられました。早くからビジネスへの活用を力



いられ、関西経済の発展に寄与されておられます。実際、関西経営情報科学協会(略称KIMS、のちに関西経営システム協会と改称)が故北川一栄住友電工会長を会長として昭和44年に設立されるとその有力メンバーとして関西経済界と関西のOR研究との結び付きを強くすることに貢献され、自身昭和59年にはその副会長になられました。今では当たり前となった省資源化、省力化、システム化の必要性を早くから指摘し、自らの理論的成果を応用することにも積極的に取り組んでこられました。その功績により、昭和56年第1回OR学会事例研究奨励賞、昭和63年第13回OR学会普及賞を授与されておられます。

日本オペレーションズ・リサーチ学会では副会長、関西支部長、フェロー等を務められ、国内外での研究の発展に大きく寄与されるとともに、関西生産性本部評議員、関西経営システム協会副会長、日本規格協会品質管理セミナー教務主任、物流管理協議会特別会員、日本技術連盟参与として研究成果の実質的適用および普及に尽力してこられました。

私は昭和51年に京都大学大学院工学研究科博士課程を単位取得退学して、大阪大学吹田キャンパス内にある工学部応用物理学科西田研究室に助手として採用されて以来西田先生の薫陶を受けてきました。その当時は兎玉正憲先生が助教授、前任の助手に栗栖忠先生がおられました。私は当時組合せ最適化、分数計画な

どの研究をしていたのですが、西田先生はこの辺りも詳しくびっくりしました。人脈も広く、OR学会をはじめとする学会関係はもちろん、経済界、特に関西経済界のトップの方々、海外の研究者との交流も盛んで、西田先生のお部屋にはいつもお客さんが来ておられました。一方で教育にも力を入れておられ、数学関係、統計関係などのあらゆる科目をほとんど休講されることもなくこなしておられました。西田先生の講義のスタイルはスマート、明快で授業中にも見ないで、黒板にチョーク1本ですらすらとかかれるというものでありました。そんな偉い先生でしたが、気さくで学生の面倒見もよく、学科は応用物理で物性、力学、光の理論や実験を中心に運営されていましたが、数学のできる、豪快な学生、あるいは他の研究室には行きたくない多くの学生が集まってきていました。以下に西田先生との楽しいひとときをいくつか紹介させていただきます。

1つ目は、いつも昼食は西田先生を筆頭に皆で食べに行くことでした。大阪大学工学部の大塚食堂という民間の業者がやっている店です。安いですが汚い店です。西田先生は食べるのが速く、我々は大変でしたが、学生たちと親しく食事をされていました。そのとき学生にいろいろ聞くのが楽しみだったようです。さすがに今の学生には人気がなく、今は代わりに生協の食堂になっています。

2つ目は研究室での春のハイキングです。西田先生は健脚で歩くスピードが速くて、我々がついていくのが大変でしたが、終わってから麓であるいは梅田近辺に戻ってきて、ビールを飲むのが楽しみでした。西田先生は大変な酒豪で行きつけのお店も多く、興にのると朗々と往年の宝塚歌劇の名曲“すみれの花咲くころ”を歌われるのでした。歌はお上手で、軍歌もよく知っておられて歌われることも多く、本当に多芸でした。上記受章のお祝いの会でも最後に先生がアカペラですみれの花咲くころを歌ってくださいました。大阪駅前第3ビル地下2階に“まるじゅう”という店があり、よくそこで西田研のコンパをしました。安くてそれなりに美味しい店でした。この店も西田先生の紹介でした。西田先生は大の阪神タイガースファン（虎きち）で、この店で酒を飲みながら、テレビで阪神の試合を見ては一喜一憂したものでした。

また、先生は温泉がお好きで研究室のOBを含めた忘年会として、研究室で1泊旅行もよく行いました。これにはOBばかりではなく、他大学で西田先生と親

しい先生も参加され、私にはいろいろな先生とお近づきになる良い機会でした。このとき囲碁や麻雀をよくされ、ご専門のゲーム理論を実践され大変強かったようです。この1泊旅行の集大成として、先生が大阪大学を退官される少し前の昭和63年の年末に、西田研究室で台湾に行きました。私が西田研に赴任したころ、台湾国立成功大学から待ち行列の研究に来られていた黄俊銘先生のお世話で、台湾各地を貸し切りバスで廻りました。西田先生は日本統治時代についてもよくご存じで、本当に楽しいひとときを過ごしました。

3つ目はお正月のお呼ばれです。正月2日あるいは3日にお伺いをして、奥様手料理の御馳走を頂戴しました。珍しいお酒が沢山あったように思います。お宅は箕面市桜が丘という閑静な住宅街にあり、お庭、門が2か所もある立派なお家でした。このときはじめてスクラブルというハイカラな英単語作成ゲームをしました。

4つ目は日本科学技術連盟大阪事務所でのOR部会です。西田先生が主査でこの部会があり、毎月1回か2回会合があり、ORに関する論文や自分の研究を紹介することを外部の先生も含めてしておりました。私が赴任する前からあり、私や学生にとってきちんとORを勉強する良い機会でした。残念ながら、しばらくしてなくなりましたが、梅田に近いこともあり終わってから先生は我々をあちこちに飲み連れてってくださいました。

ここまでのご紹介からわかりますように、先生は本当に人間的で人のお世話がお好きでした。お弟子さんの結婚で媒酌人を何回したとよく楽しそうに言われました。奥様も大変お優しく気配りをなされるお方で、留学生のお世話もよくされました。韓国からの留学生の韓尚秀君は一時期経済的に困難なことがありましたが、西田先生のおかげで大阪国際大学准教授として頑張っています。自衛隊からも研究生を受け入れられ、各方面にORの人材を輩出しておられます。北海道支部長で小樽商大教授の行方先生、中部支部長で名古屋工業大学教授の大鑄先生などお弟子さんは各地でOR研究のリーダーシップをとっています。

宝塚、虎、ORをこよなく愛しておられる西田先生はお元気で、酒蔵見学のある研究集会にはよく顔を出され、アドバイスを頂いております。この栄えある西田研は現在大阪大学大学院情報科学研究科情報数学専攻計画数学講座に引き継がれております。